

## 安全データシート

改訂日:2024年1月5日

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称

塩化鉄(II)四水和物

推奨用途

試験研究用

会社名

米山薬品工業株式会社

住所

大阪府中央区道修町2丁目3番11号

電話番号

(06)6231-3555(大阪・本社)

(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)

(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)

整理番号

AD0657

## 2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

健康に対する有害性

急性毒性(経口):区分4

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

警告

危険有害性情報

飲み込むと有害

注意書き

【安全対策】

取り扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

【応急措置】

飲み込んだ場合:気分が悪い時は医師に連絡すること。

口をすすぐこと。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

## 3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別

化学物質

化学名又は一般名

塩化鉄(II)四水和物

慣用名又は別名

塩化第一鉄四水和物

化学式

 $\text{FeCl}_2 \cdot 4\text{H}_2\text{O}$ 

化学物質を特定できる一般的な番号

CAS RN 13478-10-9

濃度又は濃度範囲

98%以上

官報公示整理番号(化審法・安衛法)

(1)-213

その他

HSコード:2827.39

## 4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

皮膚に付着した場合

直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。

多量の水と石鹼で洗うこと。

眼に入った場合

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用している場合には外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

直ちに医師の診断を受けること。

口をすすぐこと。

直ちに医師の診断を受けること。

## 5. 火災時の措置

適切な消火剤

不燃性である。周辺の火災状況に応じて適切な消火剤を使用する。

使ってはならない消火剤

棒状注水

火災時の特有の危険有害性

火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

出来れば容器を安全な場所に移動する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	不可能な場合は周辺に水をかけて冷却する。 適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業の際には適切な保護具を着用し、風上から作業して、風下の人を退避させる。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	粉塵の立たない方法で出来るだけ掃き集め、空容器等に回収する。
二次災害の防止策	排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策	吸い込んだり、目、皮膚および衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。
安全取扱い注意事項	取扱いについては、局所排気装置または全体換気装置を使用する。 漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに粉塵を発生させない。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずる等の粗暴な扱いをしない。
接触回避	使用後は容器を密封する。
衛生対策	湿気、水、熱 取扱い後は手をよく洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
保管	
安全な保管条件	強酸化剤、アルコールおよび強還元剤から離しておく。 排水管や下水管へのアクセスのない場所で保管する。
安全な容器包装材料	容器を密閉して涼しく換気の良い場所で施錠して保管する。 国連輸送法規で規定されている容器を使用する。
8. 暴露防止及び保護措置	
許容濃度等	
管理濃度	未設定
日本産業衛生学会	未設定
ACGIH	TWA 1mg/m <sup>3</sup> (Feとして)
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
保護具	
呼吸用保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼、顔面の保護具	適切な保護眼鏡/顔面シールドを着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。
9. 物理的及び化学的性質	
物理状態	結晶または結晶性粉末
色	淡青緑色
臭い	情報なし
融点/凝固点	672°C(無水物)
沸点又は初留点及び沸点範囲	1023.4°C(無水物)
燃焼性	不燃性
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	不燃性
引火点	不燃性
自然発火温度	不燃性
分解温度	105-115°Cで2H <sub>2</sub> Oを失い、250°Cで酸化鉄(Ⅲ)と塩化水素を生成する。
pH	情報なし
動粘性率	情報なし
溶解度	水10°C 37.6g/100g, エタノールに可溶。
n-オクタノール/水分分配係数	情報なし
蒸気圧	情報なし
密度及び/又は相対密度	1.926
相対ガス密度	情報なし
粒子特性	情報なし
10. 安定性及び反応性	
反応性	情報なし。
化学的安定性	通常の実験条件においては安定。潮解性がある。

## 危険有害反応可能性

空气中で加熱すると250℃で酸化鉄(Ⅲ)と塩化水素を生成する。  
アルコール、強酸化剤、強還元剤、酸化エチレンと激しく反応する。  
カリウム、ナトリウムと爆発性の混合物を生成する。

## 避けるべき条件

日光, 熱, 湿気

## 混触危険物質

アルコール, 強酸化剤, 強還元剤, 酸化エチレン, カリウム, ナトリウム

## 危険有害な分解生成物

塩化水素, 酸化鉄

## 11. 有害性情報

## 急性毒性

経口: ラット LD<sub>50</sub> = 984mg/kg

経皮: 情報なし

吸入(粉塵): 情報なし

## 皮膚腐食性/刺激性

皮膚を軽度刺激する。

## 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼に対して、腐食性を示す。

## 呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器: 情報なし

皮膚: 情報なし

## 生殖細胞変異原性

情報なし

## 発がん性

情報なし

## 生殖毒性

情報なし

## 特定標的臓器毒性(単回ばく露)

多量に経口摂取した場合、胃腸障害が起こる。

気道を刺激する。

## 特定標的臓器毒性(反復ばく露)

情報なし

## 誤えん有害性

情報なし

## 12. 環境影響情報

## 生態毒性

短期(急性): 情報なし

長期(慢性): 情報なし

## 残留性・分解性

情報なし

## 生体蓄積性

情報なし

## 土壌中の移動性

情報なし

## オゾン層への有害性

当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

## 13. 廃棄上の注意

化学品, 汚染容器及び包装の安全でかつ  
環境上望ましい廃棄, 又はリサイクルに  
関する情報

都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理する。  
廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。  
空容器の処理を依頼する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 14. 輸送上の注意

## 国連番号

3260

## 品名(国連輸送名)

CORROSIVE SOLID, ACIDIC, INORGANIC, N.O.S.

## 国連分類

8

## 副次危険性

—

## 容器等級

Ⅲ

## 輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。  
重量物を上積みしない。

## 国内規制がある場合の規制情報

## 陸上輸送

情報なし

## 海上輸送

船舶安全法の規制に従う。

## 航空輸送

航空法の規制に従う。

## 応急措置指針番号

154

## 15. 適用法令

## 化学物質管理促進法(PRTR法)

該当しない

## 毒物及び劇物取締法

該当しない

## 労働安全衛生法

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物[鉄水溶性塩]

## 消防法

該当しない

## 水質汚濁防止法

指定物質[鉄及びその化合物]

## 船舶安全法

腐食性物質

## 航空法

腐食性物質

## 16. その他の情報

## 参考文献

NITE-CHRIP(製品評価技術基盤機構HP)  
17423の化学商品(化学工業日報社)

国際化学物質安全性カード(国立医薬品食品衛生研究所HP)  
The Sigma-Aldrich Library of REGULATORY and Safety Data  
The Sigma-Aldrich Library of Chemical Safety Data Edition II  
Merck Index 14th.  
化学品安全管理データブック(化学工業日報社)  
化学大辞典(共立出版)  
産業中毒便覧(医歯薬出版)

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。